

2018年度卒塾生 笑顔の中の強さ

2018年度卒塾生、最後はすばらしく明るく優しく三人の女の子たちです。

まず一人目はMちゃんです。今、瑞陵高校に通う彼女ですが、ここに至るまでには早い段階で波乱がありました。入塾したのは小5の初め。小柄で笑顔のかわいい女の子、塾でも真面目に頑張っていました。ところが半年後の11月、突然彼女はお母さんに言いました。「お母さん、今はどうしても友達と遊んでいきたいの。中学生になったら絶対頑張るから、今は塾を辞めたい。」と。勉強が嫌いというわけではない、塾が合わないというわけでもない、ただ、塾の時間に友達と遊べなくなるのがたまらなくつらい……。 “今は友達と思いっきり遊んで、中学でまた頑張ろう” 小5の女の子が下した決断でした。その後彼女は一旦塾を辞め、自分で約束したとおり中学では戻ってきて、一度も弱音を吐かず最後までやり通しました。読書と焼き芋の大好きなお茶目なMちゃんは、芯の強さを内に秘めたその愛されキャラで、今でも友達の輪の中で笑っています。

続いては小6の初めに入塾した、太陽のような笑顔のHちゃん。中学生になった彼女には、どうしても克服し難い教科がありました。それは社会です。得意の数学のように、「考える」だけではどうにもならない、「覚える」ことが絶対に必要な教科—そこに彼女は苦しみました。やってもやっても頭に残らない。入試を2ヶ月後に控えた12月の模試でも社会の偏差値は41という絶望的な有様……。いくら数学や英語で引き上げても第一志望校の必要偏差値に届きません。志望校を下げるかとさんざん悩んだ末、彼女の下した決断は、“志望校は下げない、社会を何としてでも覚える” というものでした。その覚悟を決めてからの彼女は人が変わったように頑張りました。年表ワークの問題集はまるまる一冊全て覚えきりました。そして、いよいよ入試当日、彼女のテスト結果は、何と社会が英語に続く高得点というものだったのです。彼女は現在、第一志望校の高蔵寺高校に“頑張りがれた” 自信をまとい、元来のみんなを幸せな気持ちにさせる笑顔で元気に通っています。

最後はNちゃん。2018年度卒塾生、この学年は彼女のみんなを包み込む心の広さと温かさによって学校間の壁を越え、男女の壁を越え、一つになっていたと言っても過言ではないでしょう。もちろん彼女一人の力ではありませんが、彼女のコミュニケーション力、企画力、そして誰をも巻き込んでいく実行力、これはみんなが認めていたことだと思います。誰かの誕生日にはサプライズで全員で歌を歌ってお祝いし、ある時は塾の女子全員を誘ってみんなで丸1日遊び、卒塾の時には私に全員からの寄せ書きをとりまとめてくれました。強いリーダーシップではありません。笑顔で誘いかけるものですが、彼女を動かしているものが周りのみんなへの温かな思いだからこそ、みんなも笑顔で賛同してくれるのです。そんなやわらかな心の彼女ですが、進路は「もっと上の学校に行けば……」というご家族の勧めを断り、最後まで自分の意思を貫いて地元の高蔵寺高校に決めました。今、厳しい部活の中、自分の可能性を求めて頑張っています。小柄な身体に笑顔を絶やさずに……。